

輪採制の概要について

エゾシカ個体数管理の現状

道では、エゾシカの個体数管理の一環として、増えすぎたエゾシカを減少させるために、様々な規制緩和措置(メスシカ捕獲数上限の撤廃、猟期延長など)を実施してきました。

しかし、生息数を減少に導くために必要な捕獲数は確保されていません。

さらに、今までどおりの規制緩和を継続したとしても、狩猟者が減少するなど、十分な狩猟努力量(出猟した狩猟者ののべ人数)の維持も困難な状況です。

そのため、規制緩和に加え、捕獲効率を高めるための新たな狩猟システムを早急に検討する必要があります。

中抜き禁猟期間の効果

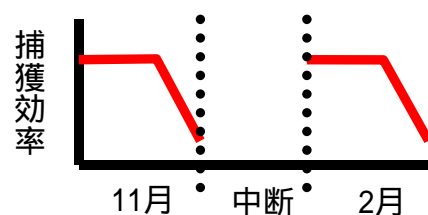
2005年度に道南のエゾシカ狩猟期間を11月と2月に設定して、その間を禁猟期間としました。

その結果、11月の解禁後2週間の捕獲効率は非常に高く、その後急激に低下し、2月にも同じ現象が見られました。(右図参照)

このことは、エゾシカが狩猟に対して学習した結果の影響と考えられます。

解禁後しばらくは警戒心が少ないため捕獲し易いが、2週間ほどすると狩猟者を回避するようになり、捕獲は難しくなります。

間に禁猟期間を設けることによって、再び捕獲効率が上昇したと推測しています。

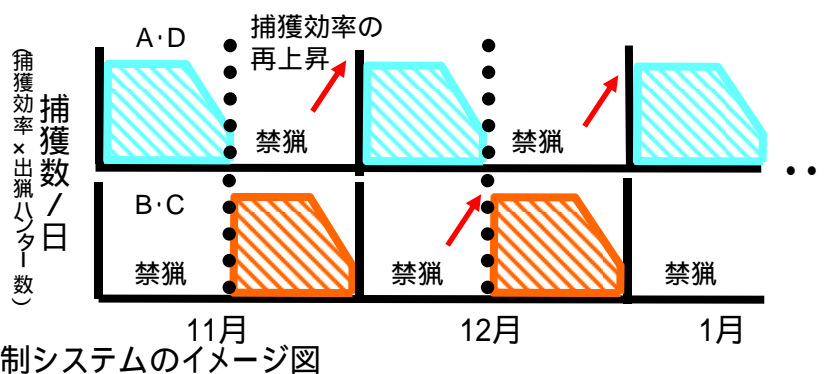
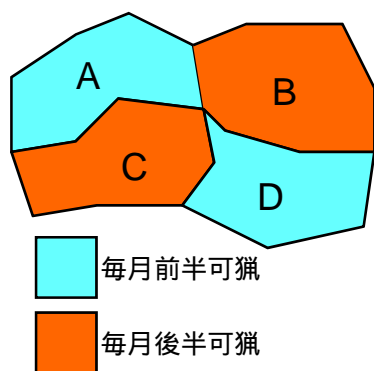


2005年度猟期の道南における捕獲効率の推移

システムの概要

これらのことから、可猟期間と禁猟期間を交互に設定することにより、高い捕獲効率を維持し続けることが期待されます。しかし、一方で、禁猟期間を設定することは狩猟を行う機会の減少につながるため、可猟区をさらに小ブロックに分割し、隣接するブロックの可猟期間を交互に設定することにより、狩猟者の方々も出猟しやすい環境を維持し、狩猟努力量の減少を最小限に抑えることが出来ると考えました。

このシステムはホタテやアワビなど、漁場をブロックに分けて禁猟したり解禁したりして資源を管理する「輪採制」に似ていることから、便宜上「輪採制システム」と呼んでいます。



輪採制システムのイメージ図

システムの効果検証

エゾシカ狩猟では、出猟の日報を狩猟者の方々から提出してもらうことになっています。この日報を分析して次の項目を比較することで効果を検証します。

捕獲効率(CPUE): その地域で狩猟者1人が1日当たり何頭のシカを捕獲したか

狩猟努力量: その地域に何人の狩猟者が出猟したか

属地捕獲数: その地域で何頭のシカが捕獲されたか